

新潟県 公民館月報

KOMINKAN GEPPU

12

December 2019
No.802



学校・家庭・地域の連携事業「座禅体験」(関川村)

お寺で座禅を体験。

4~5

特集

「にいがた生涯学習県民フォーラム2019」開催

CONTENTS

- 2………… トピックス 第2回 下越地区公民館職員研修会開催
- 3………… 視 点 「もう一つの学び場」 出雲崎小学校校長 吉田 順一
ひろば 「好奇心の融合、新たな学びへ」 かしわざき市民大学 講座企画運営委員 小林 淑子
掲 示 板 「第31回全国公民館セミナー開催要項」
- 6………… 実践記録シリーズ 大盛況だった「夏休み夜のおはなし会」 津南町公民館
- 7………… サークル交流 「自然とのふれ合いを大切に!」(糸魚川市) / 「楽しみながら描く」(加茂市)
素 顔 拝 見 伊藤 廣恵さん(村上市) / 牛田 伸幸さん(田上町)
- 8………… お元気ですか 「新潟市失語症友の会」との出会い 新潟市・玉木 一彦さん
恵贈資料紹介

第2回 下越地区公民館職員研修会開催

下越地区公民館連絡協議会第2回公民館職員研修会が令和元年11月1日(金)に新発田市あかたにの家で開催されました。

○開会式

・下越教育事務所社会教育課 伊藤課長から「本日の研修を持ち帰って今後のお仕事に生かしてほしい」というお話で研修会がスタートしました。



開会式の様子

○研修① 「あかたにの家の施設及び活動紹介」

新発田市中央公民館小室貴史さんから「赤谷の自然や歴史について」、「あかたにの家の概要」、「あかたにの家の活用し新発田市内全小学校で日帰りか1

泊2日の小学校防災キャンプに取り組んでいる様子」等について紹介があった。



小室さんの発表



小学生の作成した防災グッズ

○研修② パッククッキング

・実際にパッククッキングを体験しました。ポリ袋でつくるカレーとじゃがりこを使ったポテトサラダをつくり食べました。



出来上がったカレーとじゃがりこポテトサラダ

○研修③ 防災レクリエーション

・講師 NPO法人ふるさと未来創造塾事務局長

中野 正嗣 様

コーディネーター

中野 明子 様

・災害時の避難所の様子(トイレ、食べ物アレルギー、避難スペース、赤ちゃんの授乳等について具体的な説明がありました。)

・「避難しました。明日の昼まで生活します。これからどうすればいいですか。」と問いかけた後、災害時に役立つ防災グッズ作り等を体験を通して学びました。

ア 毛布担架づくりと搬送

体験

イ 段ボール寝床づくり (パーティーション等)

ウ 新聞紙スリッパと紙

コップづくり

エ ペットボトルランタンづくり



講師のあいさつと説明



新聞紙スリッパ、紙コップ、ペットボトルランタンを実際に作成しました。

○情報交換

テーマ「子どもも大人もワクワクする講座・取組を考え

よう」
・グループ別に具体的な取組・講座について話し合いました。
地域の海抜調べ、段ボールで部屋づくり、お菓子で創れる非常食、子どもが教えるグッズ作り、秘密基地づくり、パッククッキングコーナー(試食)等子どもと地域一緒に楽しめるアイデアが出されました。



グループの話し合い

○今回の研修会は、公民館で活用できる防災プログラムが紹介され、参考になることが満載でした。今後の仕事に生かしていただければと思います。(広瀬)



かしわざき市民大学
講座企画運営委員
小林 淑子

柏崎市の生涯学習の一つ「かしわざき市民大学講座」は前期と後期に分かれており、前期は市の文化・生涯学習課が市内にある2大学と連携企画し、通常、大学でしか学べない専門的な分野について学ぶことのできるものです。これまでには地元大学ならではのテーマ、人口減少対策、柏崎市の活性化に焦点を向けた講座もありました。

今回ご紹介したい後期の「かしわざき市民大学講座」。こちらは、公募された市民が企画運営委員となり講座をプロデュースできるのです。(私もこの企画運営委員に携わらせていただいています。委員は大学生も含め11名。初回の運営会議にそれぞれの委員が企画案を持ち寄ります。広範囲にわたりバラエティーに富んでいます。その数なんと50余り。そのたくさんの方から、共通点、関連性を見出して10講座程度に融合してくださるのが文化・生涯学習課の職員さん。この手腕が抜群！例えば「縁起菓子」があるのか知りたい、「柏

崎日記」が書かれた当時の食事について知りたい、といった素案から「柏崎の食文化」という視点でまとめ、ひとつの講座に仕上げてくださいるのです。多方面からの「知りたい」を集約することで受講者の学びの広がりにつながります。このように市民の好奇心を見事に融合し魅力的な講座を設定してくださる職員さんに感謝するとともに、より多くの市民の学びの場としまして「かしわざき市民大学講座」がますます発展することを願っています。

視点



出雲崎小学校校長
吉田 順一

「もう一つの学び場」

夏のある日、立ち寄り先の近くの会場で、子供たちが大勢いたのぞいてみると、小学生対象の「お仕事体験教室」だった。普段、家庭ではできないことをプロの手ほどきで、カメラマン、モデル、パティシエ、フーアレンジメント、海上自衛隊、車両整備士のうち希望する3つの職業を体験できるという催しは、子供たちの関心も高く、真剣に取り組んでいた。

公民館の行事を見ると、実にたくさん催しや教室がある。子供たちは、興味のある活動を「公民館」を窓口にして試しながら、自分の学びを広げたり深めたりしている。そして、そこに集う人たちとも顔見知りになり、社会性を伸ばしながら地域に溶け込みながら育っていくのだと思う。

県外視察の折り、平日の夕方に弓道の用具を持った若者が続々と地域の弓道場に集まってくる姿を見たことがある。聞くところ、学年や所属も違うが、部活動のように一緒に練習をするということであった。毎日となるとできないかもが、各学校単位だとならない活動も活動拠点と指導者を共有すればできるという事例である。移動や活動時間など解決しなければならぬことはあるが、学校だけではできなかった活動が「できる」ことの意味は大きい。住民ボランティアのみならず、これからは民間団体の力も取り入れながら、利用者に合わせた時間や場を見直し、必要な要素を加えていくことで楽しみ方に幅が広がるのではないだろうか。例えば、放課後や勤務終了後の帰宅途中の時間で活動できれば帰宅後の参加が効率的である。また、親子参加が可能であれば子育て世代の参加も期待できる。先日の新聞にタクシー配車のスマートアプリの記事が掲載されていた。参加の自由度を高め、近い将来、公民館活動もアプリで予約なんていう時代が来るのではないだろうか。

第31回全国公民館セミナー開催要項

掲示板 HOT NEWS

- 1 テーマ 「新しい時代の公民館戦略を考える」
- 2 会期 令和2年1月29日(水)～31日(金)
- 3 会場 国立オリンピック記念青少年総合センター
- 4 定員 100人(申込みは県公民館連合会からです。個人での受付はできません。)
- 5 プログラム
- 1日目
- (1) 先進事例に学ぶこれからの公民館運営
コーディネーター 田中雅文氏
(日本女子大学教授)

- ゲスト 前田学浩氏(南国市稻生公民館顧問)
宮城 潤氏(那覇市若狭公民館館長)
- (2) 文部科学省の公民館をめぐる動き
水田 功氏(文部科学省総合教育政策局地域学習推進課長)
- (3) 情報交換会
- 2日目
- (1) お笑い芸人に学ぶコミュニケーション術
バーゲンセール(お笑い芸人)
- (2) ワークショップ
「新しい時代の公民館広報戦略」

- 山田義郎氏(マルチメディアプロモーションサービス)
- 3日目
- (1) 特別講義 「東京オリンピック・パラリンピックに向けて」
八木和広氏(東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会スポーツ局次長、元文部科学省社会教育課長)
- (2) 集中講義
「公民館を地域づくりの基盤に」
牧野 篤氏(東京大学教授)

特集

「にいがた生涯学習県民フォーラム2019」開催

「にいがた生涯学習県民フォーラム2019」が11月9日(土)、10日(日)に新潟県県立生涯学習センター(新潟市中央区女池南)で開催されました。講演会のホールだけでなく各ブースにも多くの参加者で賑わいました。2日間の催物を写真で紹介します。

○1日目 開会式・いきいき県民カレッジ表彰式

- ◆ホール
- ・開会式



新潟県生涯学習推進課 信田課長 開会のあいさつ

- ・いきいき県民カレッジ表彰式



学長賞受賞者のみなさん

賞) 受賞者総数は48名で当日は参加者は6名でした。

- ・読書おたよりコンクール・中高生POPコンテスト表彰式



読書おたよりコンテスト受賞者のみなさん



中高生POPコンテスト受賞者のみなさん

- ・読書週間記念講演会
- 講師 小説家 阿刀田 高さん
- テーマ 「ユモアと読書の勧め」
- ◆エントランスホール

・県社会教育関係団体懇話会の活動紹介パネルの展示
(県生涯学習協会、県公民館連合会、県社会教育委員連絡協議会、県子ども会育成連合会、県小中学校PTA連合会、県高等学校PTA連合会、日本ボーイスカウト新潟連盟、ガールスカウト新潟県連盟、県婦人連盟、県健民少年団連合会)

○2日目

- ◆ホール
- 1 家庭教育講演会

講師 新潟青陵大学教授 伊藤真理子さん
テーマ 「思春期のころと関わる」

子どもの現在について、インターネットやSNSを介したコミュニケーションからくるコミュニケーションの希薄さ、「別に」「そこで」など表現することばの貧困さ、キャラ設定で付き合うことや「深い」関係のもてなさによる自分の定まらなさ、「他人」への想像力は働かないので身内と他人の極端な分化が進んでいること、現代の思春期と自殺についての関連についてもお話されました。

参加者の中には、思春期の子どもをもつ保護者も参加しており「どう関わったらいいか」という質問には「思春期の子どもの話をよく聴いてやること」が大切である」というお話がありました。

2 「大人の学びトワイイベント」

講師 女優・作家 中江 友里さん
テーマ 「とっておきの学び」

中江さんは、高校生で女優としてデビューしたが、仕事の関係で高校生活を継続できなかったという事です。結局4つの高校に通い5年かけて卒業したそうです。読者が好きで特に関西弁で語られる本を読んでいたようです。その後、演出や脚本・コメンテーターの仕事をしていく上で一度き

ちゃんと学ばなければならぬと思い、大学の通信教育で学びなおすことを決心したそうです。国内には年齢に関係なく学習する機会が多いこと、学ぶことの楽しさが分かったそうです。学び続けることが大切であると語られていました。



◆大研修室

- ・日本けん玉協会新潟支部のみなさんからけん玉の楽しみ方を教えてもらいました。けん玉検定にもチャレンジしてました。(日本けん玉協会新潟支部)
- ・婦人連盟による絵手紙づくりの子どもたちも真剣でした。(婦人連盟)
- ・絵本カバーで手提げバックをつくりました。好評で用意した材料はすぐ無くなりました。(生涯学習協会)



・災害時に役立つ簡単非常食&新聞紙・段ボールクラフトブースでは、非常食の試食や新聞紙でスリッパ、コップ、皿等を作成しました。(日本ボーイスカウト新潟連盟・婦人連盟・健民少年団連合会・生涯学習協会共催)



◆制作演習室

・創作活動体験!!「松ぼっくりデコ」のチャレンジです。松ぼっくりに思い思いの色を塗りカラフルに仕上げました。(県立少年自然の家)



立ちました。(日本郵便(株))
・しゅわしゅわ!惑星バスボムではきれいなバスボムが出来上がりました。(県立自然科学館)



◆ロビー

・江南高等特別支援学校の学習成果品展示・即売コーナーでは手作り小物やコーヒー豆がよく売れていました。(高等学校PTA連合会)
・子ども会育成連合会のブースでは、積み木遊びとキラキラシャボン玉づくりで賑わっていました。(子ども会育成連合会)



「いがた生涯学習県民フォーラム2019」は、楽しく学び、進んで伝えようをテーマに2日間開催されました。今年度は、日本郵便(株)、県立自然科学館、県立少年自然の家等が初めて参加され、フォーラムは盛り上がっていました。(広瀬)

実践記録シリーズ

261

大盛況だった「夏休み夜のおはなし会」

津南町公民館

【はじめに】

津南町公民館の登録団体に、町のお母さんたちで構成された読み聞かせボランティアグループ「おはなしおかあさん」があります。

結成から30年以上の歴史を持つこのグループは、普段は小学校や乳児検診などでの、絵本の読み聞かせを主として活動していますが、その中で最も大きな活動が年に一回開催する「夏休み夜のおはなし会」(以下「おはなし会」)です。

【活動内容】

今年で21回目となったこのおはなし会は、今回は8月23日(金)に町公民館の和室で行いました。

時間は夜7時〜8時の1時間ですが、大型絵本、影絵クイズ、歌の手遊び、エプロンシアター、大型紙芝居、人形劇、じゃんけん大会と非常に多彩なメニューとなり、子どもたちが飽きる間もないほど濃密な内容でした。

特に今年英語が非常に堪能な方が新たにメンバーに加えたことで、英語の手遊びなどでもきるようになり、内容の幅がより一層広がりました。

そして毎回の締めに行うじゃんけん大会では、使用



したお話と同じ絵本を景品

にしており、たくさんの子どもたちが目を輝かせながら真剣勝負を行いました。中には負けた悔しさのあまり泣いてしま



う子も……(笑)。津南の子どもたちにとって夏の風物詩になっているこのおはなし会、実は一時期参加者の減少に悩まされてきました。普段の活動が水曜日なこともあり、おはなし会も長年水曜日に実施していましたが、時代の流れか「平日ど真ん中はなかなか行けない」という声が少しずつ増えていきました。

そこでなるべく多くの人が来られるようにと数年前から金曜日実施に変更したところ、参加者がだんだんと増えていき、一時は親子合わせて20人くらいまで落ち込んだ参加者が今年子どもが50人、大人が30人になり、部屋がいつぱい



になるほどのかつてない規模の大盛況となりました。中には隣の十日町市からわざわざ見に来られた方もいたほどです。

【今後の展望】

例年はおはなし会が終わり、冬期間は活動回数が減っていましたが、今年は一味違います。お母さんたちは来年のおはなし会に向けて、今から準備を始めています。来年は手作りの大型紙芝居を披露するそつで、皆で熱心に絵を書いたり色を塗ったりしています。中には連れてきたお子さんが手伝ってくれることもあり、みんなで楽しく活動しています。



来年以降も子どもたちに「おはなし」の面白さを伝えていくため、これからもお母さんたちは頑張ってください。お話し会はどなたでも見に来られますので、もし興味のある方は、津南までぜひ遊びに来てくださる。





自然とのふれ合いを大切に！

野歩路山の会

私たちの「野歩路(のぼろ)山の会」は、もう少しで結成30周年を迎えます。

山登りの好きな8名の仲間です。スタートした山の会ですが、今では会員数も32名に増え大きな山の会に成長しました。

山の会では日頃の登山活動を通じて、自然のすばらしさや山登りの楽しさを、地域に広める活動を進めています。

地域の皆さんに育てていただいた山の会です。地区公民館主催のハイキングや文化芸術祭などの地区行事には積極的に参加しています。

また、山の会の活動も山登りをはじめ、ハイキング、バス旅行、納涼会、学習講演会、地区文化芸術祭への参加など、幅広い活動を行っています。

地区内には、標高577mの



高の峰山があります。山の会では登山道の整備を行い、毎年5月には地区公民館と共催で山開きを行っており、今年で10回目となりました。

山の会の唯一の悩みは会員の高齢化です。全会員が同じに活動することは不可能ですので、身体と相談しながら活動に参加していただいています。

これからも地域に目を向けて、地区公民館との協力関係を更に進め、地域の活性化を目指して頑張ります。

糸魚川市・野歩路山の会
代表 細井 佳一 記

楽しみながら描く

春樹会(日本画)

加茂市で長年に渡り日本画振興の活動を続けてきた、伝統ある日本画教室「春樹会」の名前を引き継ぎ、再スタートして5年になります。

現在の会員数は、初心者公民館「学習援助事業」の「初心者日本画教室」をきっかけに入会し

た方」と経験者を合わせて6名です。

活動は月に2回のペースで行っています。公民館の教室で作品を広げ、1回2時間づつ制作します。時にはお喋りしたり、笑ったり……。

「日本画」は手間の掛かる技法ですが、ゆつくりと一つ一つ丁寧に楽しみながら描くことを心掛けています。また作品制作についての疑問や技法等、描き方に対する課題も共有するようにしています。みんなで描くという事は1人で描くよりも知識が何倍にも膨み、作品作りの意欲につながると思っています。

3年前から公民館の作品展にも参加させて頂き、会員の制作の励みとなっています。

作品展は、他のサークルの方との交流の場になっています。

公民館活動は、人と人が繋がっていく素敵な場所だと思います。



加茂市・春樹会
講師 森島 明子 記

村上市荒川地区公民館

社会教育指導員 伊藤 廣恵さん



公民館に来る人は、伊藤さんを「廣恵さん」と呼ぶ。「伊藤さん」と言う人はいない。地域の人に親しまれ、頼りにされている社会教育指導員である。

廣恵さんは、主に「高坪大学」と「大人のセミナー」を担当している。講座を企画する場合は、いつも「どうすれば、前回よりよくなるか」「そのために、自分は何が出来るだろうか」と、周囲への気配りを大切にしている指導員である。

先日、「苔玉づくり」の講座が実施された。廣恵さんは、いつものように休日になると川や海に行き、大小さまざま、形の異なる流木を集めた。

その流木を使った受講生は、「小さな花や枝が苔に覆われた苔玉を、流木に乗せた瞬間に、素敵な自分の作品に感動しました。久しぶりに童心に返った気分でした」と、ニコニコ顔で感想を述べた。

「私は、いろいろな人と、「一緒に何かをする」ことが好きなのです。どこで会っても『廣恵さん』と声を掛けてもらえるのが嬉しいです」という廣恵さんは、荒川地区公民館になくはならない大事なメンバーである。

(荒川地区公民館長 小川 勲 記)

田上町公民館 (田上町交流会館)

主事 牛田 伸幸さん



田上町公民館(田上町交流会館)職員の牛田伸幸さんを紹介します。

今年度で公民館職員としての経験年数が8年目を迎え、ベテランの域にきている彼。田上町公民館職員は「教育委員会生涯学習係」という肩書も兼ねており、「公民館事業」、「社会教育事業」、「生涯学習事業」、「社会体育事業」・・・と、その担当業務は非常に多岐に渡ります。人員配置の都合で今年度は一人少ないメンバーで館の運営を行う中、これまで勤務していた「田上町公民館」の代替施設として新たに「田上町交流会館」が9月にオープンしました。その移転作業や、秋の大きな行事の開催で業務が更にてんこ盛りとなり、連日てんやわんや状態の中でも、彼は強く、優しく、美しく業務をこなしています。

そんな彼の最近の悩みは、入庁から8年で20キロ太った身体をなかなか絞れないこと。色んなダイエットを試すも長続きせず・・・。ほんのちょっとだけ、他人より宇宙に占める身体の割合が多いだけなんですけどね。

田上町公民館(田上町交流会館 諸橋 聡子 記)

素顔拝見

お元気ですか

「新潟市失語症友の会」の出会い

玉木 一彦
(新潟市)



平成27年度の末、頭に激しい痛みを感じ、自宅の2階から転落してしまいました。
救急車に運ばれて、くも膜下出血、脳挫傷による右麻痺、失語症が出現し「高次脳機能傷害」と診察されたのです。

回復が難しい病気だと思われ、言語、思考、記憶に、障がいが起きる状態だと言われました。
昔のことは覚えてはいるけど新しいことは覚えられない。集中力が続かない。怒りやすくなる。自分に障がいがあるとは思って

いない。言葉が出てこないし文字も書けない。…と不便なことをあげればきりがありませんでした。
病院でのリハビリが始まり、徐々に効果も出てきて、このままでは終われないという気持ちになりました。
平成29年からは、毎週木曜日に新潟市中央公民館の「新潟市失語症友の会」に参加し、「自分たちだけのためだけではなく、外に出て交流しなければダメだ。」と大勢の人たちに広報し、

※「お元気ですか」のコーナーは現役をリタイアした方がその後お元気に活動している様子を紹介するコーナーです。

今年11月2日に向けて支援してくださる皆さんと一緒に集いを企画しました。

その集いには、新潟市中央公民館の浅間館長にも出席していただき、「私たち公民館ができることは、皆様が公民館をご利用いただいて、お互いの学びを深めること、さらに仲間を増やしていけることへのお手伝いをして、皆様の活動を引き続き応援させていただきます」と思っております。「とお話しくんだり、とても嬉しく思いました。

これからも、サークルのみんなも可能性を見つけて、交流を続けていきたいと思えます。

恵贈資料紹介

「文芸しばた」第45号 「文芸むらかみ」第10号

川柳・詩・コント・特集祝い唄祭り詩(荒川・朝日地区編)・小学

生俳句入選作品で編集されています。



「文芸しばた」第45号と「文芸むらかみ」第10号が送付されて参りました。

「文芸しばた」は詩・短歌・俳句・川柳・随筆・小説・エッセイの7部門に219人の方々の625点の作品が紹介されています。

「文芸むらかみ」は第10号記念特別寄稿・随筆・短歌・俳句

未来に残そう美しい山村

山村地域は、食料の生産、水源のかん養、国土の保全、空気の浄化、心のやすらぎの提供など様々な役割を果たし、国民の生命と生活・財産を守っています。

全国山村振興連盟新潟県支部
支部長(糸魚川市長) 米田 徹
新潟市中央区新光町4-1 新潟県自治会館内
TEL 025(285)0041 FAX 025(285)1609

編集後記

年の瀬も押し迫ってまいりました、今年度もあつと12月号の発行です。先日、近所の神社に毎年恒例のお札を買いに行きまし

たが、また1年経つたと月日の流れの速さを感じています。
新しい年が始まりますが、皆さま良いお年をお迎えください。
(広瀬)